

## みどり学級 総合的な学習の時間(自立活動含む)

1、 単元名	スーパーの仕事を体験しよう		
2、 単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活の中にどのような仕事があるのかを調べ、自分はどのような仕事に就きたいか考える。</li> <li>・数ある職業の中から、自分たちの生活に身近なスーパーの職業体験を行うことで、そこで働く人の思いに気づき、働くことの大変さを知る。</li> <li>・体験活動を通して、自分の進路について考えたり、これからの生活に生かそうとしたりする。</li> </ul>		
3、 単元の評価 基準	<b>知識・技能</b> ①社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さがあることを理解している。 ②自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならないことを理解している。	<b>思考・判断・表現</b> ① 社会に出た時に、自分にできることを考えている。 ② スーパーの方へお礼を兼ねてのPOP作りをし、渡す相手や目的を考えながら、自分なりに表現しようとする。	<b>主体的に取り組む態度</b> ① スーパーでの体験活動を行い、スーパーの方との交流を通して得た知識を生かしながら、協働して取り組もうとしている。 ② スーパーでの体験を振り返り、自分の将来の進路ややりたい職業について考え、将来に向けて見通しをもって取り組もうとしている。

### 4、指導計画（全7時間）

過程	時間	学習活動
一次 オリエンテーション	1	○職業について調べ、調べた仕事を同じカテゴリーごとに分ける。(13歳のハローワーク参照) 社会には、様々な仕事があることを知る。 ○調べた仕事の中から、今回は生活に身近なスーパーの仕事を体験することを知らせる。
	1	○スーパーの仕事には、どのようなことがあるのか調べ、調べたことを共有したり、全体で確認したりする。 ○職場体験で、どのような仕事をするのか大体を知り、見通しをもつ。
二次	1	○学区域の中にある店舗「ハッピーストア」で、オリエンテーションを行う。
	1・1	○スーパー「ハッピーストア」で、二手に分かれて体験活動を行う。 【仕事内容】カゴの整頓や清掃、食品の陳列、レジ打ちなど。
三次	1	○自分たちの活動を振り返り、次はどんな職業の体験をしてみたいか考え、発表する。
	1	○お礼を兼ねて、お店にPOPを作って渡す。

## 5、展開例

### (1) ねらい

- ・職業の分類をとおして世の中の様々な職業についての知識を深め、自分のやりたい職業について大まかな意見や考えをもつとともに、スーパーの店員に視点を絞って考え、職場体験への意欲を高める。

### (2) 展開

時間	児童の活動	○支援 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知っている職業を挙げ、友達と共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知らない職業については随時説明し、世の中の職業についての知識を増やせるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の職業ランキングを予想する。</li> <li>・人気の職業について、教師とともに調べ、仕事の内容、収入、良さなどを具体的に知る。</li> <li>・導入で挙げた職業を12種に分類し、職業の大まかな特徴を捉え、どんな分類の仕事に興味があるかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆社会には、様々な職業があり、それぞれに特徴や良さがあることを理解している。</li> <li>☆分類をもとに、自分が社会に出たときにどんな仕事に就きたいか、どんなことができるかを考えることができる。</li> <li>○児童にとって理解しづらい分類については、具体的な職業の例や分かりやすい言葉で言い換えて説明する。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーの店員がどの分類にあたるのかを考え、なぜそう思ったのかを共有する。</li> <li>・職場体験の先がハッピーストア(スーパー)であることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分類する過程で、スーパーの店員にもたくさんの仕事や役割の分担があることに気が付かせることで、次時への意欲を高める。</li> </ul>

## 6、学習材設定上の留意点(地域、ボランティアコーディネータとの連携等)

- ・ボランティアコーディネーターにゲストティーチャーを探してもらえるよう依頼した。
- ・ゲストティーチャーには、児童がどのような視点で話を聞きたいと思っているかについて、あらかじめ打ち合わせをしておく。

準備しておくといよいものや時期、地域との連携などの情報を載せておく。